

医療人としての「使命感」に期待

全国平均の医薬分業率が約60%に達する中で、保険薬局の重要性はますます高まりを見せている。高齢化社会の進行により、従来の調剤に加えて、在宅医療への貢献、介護支援、国民のセルフメディケーションへの対応など幅広い活動が薬剤師にも求められる。そうした中で、近年、新卒薬剤師の就職先として、保険調剤薬局チェーン企業が大きなウエートを占めるようになった。現在、薬学6年制への移行で、薬剤師が輩出されない空白の2年間に迎えている。保険調剤薬局チェーンの薬剤師雇用の現状、さらに6年制薬剤師に対する期待などについて、日本保険薬局協会雇用問題検討委員会事務局の村田健次氏に聞いた。

日本保険薬局協会雇用問題検討委員会事務局

村田 健次氏（フロンティア取締役管理本部長）

薬学6年制移行と時を同じくして、規制緩和による薬科大学・薬学部の増設に伴って、2年後には1万人を超える大量の薬剤師が輩出されると見込まれ、その後は、調剤薬局での薬剤師需給は飽和状態になるとの見方もある。全国33都道府県に調剤薬局を展開するフロンティア（本社大阪市）の取締役管理本部長を務める村田健次氏は「現在、薬剤師は依然、売り手市場には違いない。特に地方での薬剤師確保は、いまだ厳しい状態にある」と語る。

昨今、調剤薬局チェーン、ドラッグストアなどの店舗数の増加に伴い、薬剤師の求人も増加の一途をたどっている。村田氏は「医薬分業も定着しつつある中、調剤薬局も注目されている。国民から支持される薬局を目指すためにも、優秀な薬剤師の確保は薬局経営にとっても大きな問題。NP h Aの雇用問題検討委員会でも、薬剤師雇用の諸問題を調査・研究・検討している」という。活動テーマは「Webを活用した正会員の雇用支援」「薬剤師が不足する空白の2年間における対応」の2点を中心に、委員会としての活動を実施している現状にある。

調剤薬局チェーン企業の多くは、中・大型医療機関の院外処方せんの受け皿として、全国展開するところが多い。そのため、薬剤師の求職は「都市部に集中、地方は不足という



傾向がある」という。また、企業への就職後、地方への転勤に難色を示す向きもある。このため、地方転勤の際には厚遇で対応せざるを得ない企業も少なくない。

調剤薬局チェーンの中には、新卒薬剤師が輩出されない空白の2年間の対応策として、一気に数百人規模の薬剤師採用を行う企業もある。大量採用の裏には、依然、高い離職率もある。「毎年、相当数の採用を行っても、3～5年後には半数程度しか残らないのが実態ではないか」と推察する。離職理由はいろいろあるが、同じ企業内でも店舗間による労働環境の不均衡など、企業側にも是正すべき要素はある。「処方せんを受ける医療機関や診療内容で、勤務時間や業務内容は変わるのとは仕方がない。こ

調剤薬局業界

出店数の増加で、薬剤師は依然不足

れに対しては地域ドミナント展開による薬剤師の負担軽減なども含めて検討している」との現状を語る。

特に村田氏は、調剤薬局チェーンを志望する薬剤師に対し「医療人としての使命感、責任感を持ってほしい。『薬』を通して『人』を見るということを理解してほしい」と訴える。調剤薬局チェーン企業の場合、処方せん調剤を通じた地域医療への貢献という意味で、出店を押し進めていくことが、社会的ニーズにも合致する。

今後、2025年をピークに国内総人口は減少に転じるとされ、すでに過疎化、高齢化が進む郡部などでは、日々の買い物にも苦勞する「買い物難民」の問題も浮上している。医療分野でも同様だ。そのため、「地域医療への参画という意味で医療人としての使命感を持った人材」を期待している。

6年制薬剤師への期待として、「病院・薬局での長期実務実習で、実際の臨床現場に携わることは大きなポイント。調剤薬局の現場においても即戦力として期待できる」とする。現在、コミュニケーション能力のほか、バイタルサインの読み方や、人体モデルを用いた実技実習を取り入れている大学もあるが、「薬局現場でも在宅医療への参画など、臨床に近い現場に携わるようになる。そこで、バイタルサインを把握できれば、もう少し踏み込んだ業務も可能になるかもしれない。また、そうした現場で医師や看護師などのコ・メディカルスタッフとの接点も出てくる。新たな薬剤師の業務拡大、薬局業務のレベルアップに向け、大いに期待している」という。

6年制の薬剤師に限らず、大学で学んだことは時として、現場では通用しないことも多い。村田氏は「日々の業務の中から、専門性や患者さんとのコミュニケーションを吸収しようとする気持ちが大切」と強調。また、「プロフェッショナルとしての知識・技術を通じ、患者さんに接していくという気持ちを常に忘れないことが重要」とエールを送る。

企業メモ

◇フロンティア＝ワタキューグループ企業として調剤薬局事業を展開。グループネットワークを生かし、地域の医療・介護・福祉分野でトータルケア薬局を進めている。現在、全国33都道府県に135店舗の調剤薬局を構える。



miki pharmacy

ミキ薬局

首都圏での店舗展開

東京都：17店舗 神奈川県：5店舗
埼玉県・千葉県・山梨県・栃木県：各1店舗

私たちと一緒に、
未来を描いてみませんか！



人と人とのコミュニケーションを育みたい。
そしてそれが大きな幹（ミキ）から伸びる枝葉のように、
未来に向かって広がってほしい。それが私たちの希いです。

株式会社 メディカルファーマシー
人材開発部 saiyou@miki.ne.jp

本社：〒162-0056 東京都新宿区若松町9-12 KSビル 2F TEL 03-5368-2011
設立/昭和54年2月 資本金/5,000万円 売上高/114億円 従業員数/250名（薬剤師167名）